

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
453	川崎市立橋高等学校定時制	高井 健次

学校教育目標	学校経営の重点目標	今年度の重点目標
真理と正義を愛し、互いに敬愛の誠を尽くし、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた心身共に健康な平和国家社会の形成者の育成 1 知性と品性を高め豊かな情操の育成に努める 2 協同友愛 3 自治の精神の確立 4 勤労愛好の習慣の体得	1 課題解決力を育てる教科指導 2 進路を見据えた教育活動等の指導 3 豊かな心で社会貢献できる力の育成 4 魅力ある学校づくり	○基礎・基本の定着に基づく応用力・課題解決力及び自己学習力の育成 ○生徒の個性を尊重した進路指導・生徒指導・学校行事、特別活動指導の充実及び生徒の主体性の育成 ○人権尊重教育・道徳教育・共生共育等の推進と共に、キャリア教育の推進により、豊かな心と自己実現できる力の育成 ○保護者・地域へ開かれた、信頼される活力あふれる学校づくり

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
2	1 教育課程・学習指導	☆定期考査前には、欠席等により学習が遅れている生徒に対する補習、考査後には成績不良の生徒への補習等を行った。これからも補習を行いやすい環境づくりに努める。 ☆特に支援が必要な生徒に的を絞って、当該学年を中心に教科担任とも連携しより良い支援に努めた。巡回相談では指導のアドバイスをいただいた。何らかの支援が必要な生徒が年々増えている。 ☆今年度も定期的に「教養科担当者会」を行い、情報交換や、適切な指導が行えるように討議を行った。各種検定等の学習以外にも個々の学力や進路希望に応じた学習指導を少しずつだが取り入れられた。 ☆特に1年生の新教育課程に基づいた授業の実践については、ほぼ計画通りに行えたが、評価方法も含めてしっかりと検証する必要がある。	☆定期考査前には、欠席等により学習が不十分な生徒に対する補習、考査後には成績不良の生徒への補習等を行った。今後も必要な生徒への補習を行いやすい環境づくりに努める。 ☆特に支援が必要な生徒には、当該学年を中心に教科担任とも連携しより良い支援に努めた。巡回相談では指導についてのアドバイスをいただいた。支援が必要な生徒が年々増えているため、教職員の共通理解をより一層深めたい。 ☆今年度も定期的に「教養科担当者会」を行い、情報交換や、適切な指導が行えるように討議を行った。各種検定等の学習以外にも個々の学力や進路希望に応じた学習指導を少しずつだが取り入れられた。 ☆新教育課程に基づいた授業の実践についてはほぼ計画通りに行えたが、評価方法も含めて検証する必要がある。	◎個に応じた学習指導が充実するように学級担任を窓口として各教科・科目の指導日等の機会を計画的に行えるようにしていく。 ◎支援が必要な生徒については、個々の指導計画を作成し、全教職員間で共通認識を持ち指導に努めていく。 ◎特別な支援が必要な生徒については、具体的な指導方法について支援教育サポーターに協力を依頼し、支援と指導、協力を仰いでいく。 ◎「教養科担当者会」において、三修制の科目である特講教養がより充実したものになるように、引き続き内容や形態について検討する必要がある。また、こまめに面接を行い生徒の要望をしっかりと聞くことを心がける。 ◎各教科において、今後も定期的に新学習指導要領に関する研修・研究を行い、新教育課程に沿った授業実践の計画を立てていく。
	2 生徒指導	◎職員会議等、教員が定期的集まる機会を用いて、生徒指導に対する姿勢についての共通理解を図るとともに、指導方法についての情報交換やその後の指導経過等についての情報共有を行った。 ◎新入生のオリエンテーションの中で、携帯電話・スマートフォンの使用に関する指導についての時間を設けた。 ◎生徒会活動は、生徒が主体となって立案、計画、運営することが大切であるが、そのために、教員が生徒会役員をサポートし、生徒会を盛り上げる手助けを行った。 ◎日常的な相談だけでなく、定期的に行われている個人面談や教育相談で得られた情報について学年を中心に情報共有し、早期に問題を確認し、迅速に対応できるように継続的に取り組んだ。また、保護者との連携にも継続的に努めた。	☆定期的な学年打合せや職員会議等において、教員間での情報交換を行い指導の徹底に努めた。 ☆新入生については、入学式後に携帯電話・スマートフォンのネットへの書き込み、画像や動画の配信マナーについて注意喚起を強く行い効果があったが、上級生でネット関係のトラブルが少なからずあった。 ☆生徒会活動は、集会や行事を通して、主体性・自主性の向上が見受けられた。また、地域ボランティア清掃は年間3回を予定し、2回実施し3割ほどの生徒が参加した。 ☆個人面談や教育相談の内容、学校生活アンケートの結果を学年会等で情報共有し迅速に対応した。また必要に応じて保護者とも連携して対応に当たることができた。	◎各教科での指導に対する姿勢の徹底を図り、継続していく。些細なことでも、それぞれの部署で情報共有に努める。 ◎新入生にはもちろん、上級生も含め学校全体で、携帯電話・スマートフォンについて、情報モラル教育を含め指導の徹底を今後も図る。 ◎より一層、生徒の主体性や自主的なリーダーシップの育成が継続できるよう、前生徒会担当者から指導内容や指導方法を後任に引き継いでもらう。教員も学校行事を盛り上げるために様々な方法で生徒のサポート方法を日々考える。 ◎今後も日常的な相談や定期的な面談、学校生活アンケート等を行うことで早期に問題を確認・認知し、迅速に対応できるように継続して取り組む。また、保護者との連携も継続して行うよう努める。
	3 進路指導	◎キャリア教育においては、様々な考えをもつ生徒一人ひとりに対して寄り添い、根気よくコミュニケーションをとりながら指導を行った。 ◎キャリア教育におけるプログラムについては、過去の実績を踏まえ、各学年の担任の意見も反映しながら、適切な内容を行った。 ◎職業体験ができるように、今まで実施してきた職業に限らず、様々な職業体験ができるように受入企業を増やすことに努めた。 ◎限られた時間の中であったが、3修制(ジャンプアッププログラム)のプログラムに、キャリア学習・進路学習を組み込むことについて検討しながら少しずつ取り入れた。 ◎様々な考えの生徒がいる中で、進学先合格後や就職内定後に進路変更することがないように、生徒ならびに保護者にも確認を取りながら慎重に進路決定を進めた。	☆進路先がなかなか決まらない生徒に対して、始業前や放課後等に一緒に求人情報を調べたり、履歴書や自己推薦書等の記入について時間をかけて対話しながら進路指導を進めた。 ☆全校生徒を対象に行うキャリア教育講演会を開催し、希望進路実現に向けての意識づけができた。 ☆職業体験を7月(夏休み中)に実施した。 ☆昨年度に続き、3修制の履修者の卒業学年(3学年)の生徒に対して、7月からは進路対策として面接指導などを行った。昨年度より指導の時間と内容を増やした。 ☆進学先合格後や就職内定後の進路変更がないように、進路指導については三者面談も含め慎重に行った。	◎キャリア教育では、生徒の個性を重視しながら寄り添い、根気よくコミュニケーションを取りながら指導していく。 ◎キャリア教育におけるプログラムについては、生徒のアンケートや過去の実績を踏まえながら、各学年の担任とも相談し、今後も適切なものを取り入れていく。 ◎職業体験については、生徒にとって有益なものとなるように、新たな体験内容も含め検討し実施に努める。 ◎3修制(ジャンプアッププログラム)は、プログラムにキャリア学習・進路学習の充実が図れるような新しい学習内容を組み込むことを考える。 ◎進学先に合格しながら入学を辞退するようなことがないように、卒業予定の生徒に対しては三者面談も含め、より慎重に進路指導を行っていく。

4	安全管理	<p>◎防災訓練については、夜の時間帯である定時制高校の活動時を前提とし、実際と同様な状況を想定した訓練を2回計画・実施した。</p> <p>◎昨年度実施した研修会・講習会については、どの講演会も安全・安心に学校生活を送るために必要なものであり、今年度も右記の各種講演会を開催した。</p>	<p>☆今年度も防災訓練は2回(4月、9月)行った。停電時の避難を実際に近づけるため、教室・廊下などの照明は消して行った。また、生徒帰宅方法別名簿を4月上旬中に作成し、年度当初から帰宅訓練を行うことで定着を図れた。</p> <p>☆今年度も生徒向けに「交通安全教室」「情報モラル講演会」「性教育講演会」「薬物乱用防止講演会」「人権尊重教育講演会」を実施した。全体的に具体的なわかりやすい説明で生徒に効果的であった。教職員向けには「心肺蘇生法(AED)に関する研修会」を実施した。例年と重なる内容もあったが、今回は生徒会役員生徒にも参加してもらい、確認の意味でも有意義な時間となった。</p>	<p>◎今後も防災訓練の避難時では、教室・廊下などの照明は消すなど、実際にできるだけ近づけ、臨場感を持たせた状況で実施していく。</p> <p>◎防災訓練の実施については、前もって方法や日時を全日制管理職と確認しておく。</p> <p>◎災害時の生徒帰宅方法は今後も年度当初にしっかりと確認し、生徒自身にも意識を持ってもらうよう努める。</p> <p>◎今年度実施した研修会・講演会について、必要なものは繰り返し開催する。SNSのトラブルは大きな問題に発展することも多く、講演会だけでなく普段から徹底した指導を行う。</p> <p>◎それぞれの講演会の実施時期について、内容に照らし最も効果的な時期を今後も再確認していく。</p>
5	組織運営	<p>◎キャリア教育委員会では、令和2年度に本校で作成した「キャリア在り方生き方教育全体計画」を基に、必要に応じて改善しながら各学年だけではなく、本校としてのキャリア教育の確立を目指した。</p> <p>◎新学習指導要領に対応した新教育課程の実施が1年生から始まった。昨年度から計画を行ってきた具体的な各科目の内容について、授業の中で取り扱っていく。</p>	<p>☆キャリア教育委員会では、指導計画に基づきながら、生徒の実態に即したきめ細やかな指導を行った。生徒への就労意識の浸透を図るため、外部講師による「キャリア教育講演会」を実施した。進路に関わらず、社会人として大切なことを学んだ。また、研修として職員全体で自立訓練事業所(エンラボ)を複数回見学し、事業所でのような訓練が行われるのか学ぶことができた。</p> <p>☆全教職員を対象に新学習指導要領に則った評価方法についての研修会を行い周知・確認に努めた。</p>	<p>◎キャリア教育委員会では、指導計画に基づきながら、生徒への就労意識のさらなる浸透を図るため「キャリア教育講演会」の継続実施や、就労体験の機会を設ける。</p> <p>◎生徒支援を充実させるための研修として、自立訓練事業所を複数回見学することなど、さらなる研修の充実・実践を図る。また、専門機関との連携を強化する。</p> <p>◎全教職員を対象に新学習指導要領に則った評価方法についての研修会を継続し、周知・確認に努める。</p>
6	保護者・地域・住民等との連携	<p>◎継続して、中学校訪問を行い本校を理解してもらうことに努める。また、ゆうゆう広場に通う生徒や教職員、関係者にも丁寧に説明を行う。</p> <p>◎更にホームページの更新回数を増やし情報配信を積極的に行うとともに、配信内容についても保護者が定期的に閲覧するようなものになるように検討していく。</p> <p>◎昨年度から継続して、近隣商店街の方々や、近隣地域住民の方々との交流について、文化祭や授業公開日等の機会を活用してより多くの方々との交流を図ることができないか検討を行った。</p>	<p>☆学校説明会の前に市内中学校訪問を行い、クラス用、個人用に本校資料を持参し、学校の特色の情宣に努めた。事前にも資料送付した。</p> <p>☆ホームページは毎日更新し、内容の充実にも努めた。</p> <p>☆ボランティア清掃活動を2回実施した。</p> <p>☆今年度はスポーツ大会と文化祭(ものづくり体験)が実施できた。授業公開については中学生、高校中退者等、3回実施した。例年に比べ参加者が多かった。</p>	<p>◎中学校訪問を行い、本校の教育活動の特色を理解してもらうことが必要であるので、回数や内容についてより効果的、効率的な方法を検討する。また、配布資料もよりわかりやすいように編集する。</p> <p>◎ホームページをより見やすく、内容も充実させて、今後も毎日更新を目指していく。</p> <p>◎限られた時間ではあるが、地域貢献活動を今後も続けていく。</p> <p>◎今後に向けて近隣商店街の方々や、近隣地域住民の方々との交流について、文化祭や授業公開日等の機会等を活用してより多くの方々との交流を図れるよう努める。</p>

3

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ
<p>・コロナで厳しい学校生活を送ってきた今年度最高学年の生徒たちは、よく頑張ったと思う。制限がある中で、気持ちを崩さず乗り越えたことは、今後の将来に必ずつながると思う。</p> <p>・授業では、コロナ禍でグループワークができず一斉型の授業であったが、令和5年5月に5類となり、グループワークが復活、授業を楽しみ姿が見られた。</p> <p>・定時制の皆さんは、学びへの意欲を捨てず、地道に勉強を続けてきたことに驚きを感じています。</p> <p>・様々なことにおいて、社会問題や、自己責任としての問題にも目を向けていたと感じられる。</p> <p>・生徒会長や副会長からの年間報告、学校独自の課題も明確に紹介してくれたことは、具体的かつ学校への思いが感じられた。特に生徒会役員になってから、自分がより良い学校作りに向け、全体を見通した取り組みへの意欲も感じられた。</p> <p>・学校生活の発展と学校への思いを抱いて生徒会で頑張っている様子が伝わった。</p> <p>・定時制はPTAがないので、外部企業などと連携して協力いただくのも案ではないかと思う。</p>	<p>昨年度と比較してみると、生徒・保護者の学校評価アンケート結果から、全般的に肯定意見が上昇している。今後共、生徒が先生やクラスメイトと話す機会を大切にできるよう、言語環境を保証していきたい。また、生徒が教師に相談しやすいような雰囲気も日常化させたい。</p> <p>【支援】</p> <p>○生徒と保護者が高校生活を安心して過ごせるような手立てとして、支援を要する生徒情報を共有し、諸検査や成育歴をもとに個別支援計画を作成する。</p> <p>【学校行事】</p> <p>○生徒会行事では、昨年度までのスケート教室から「アメリカンフットボール見学・体験」に変更した。生徒がより親しみながら取り組めることや、地域企業の活躍に出会えたことは郷土愛への一歩と考える。初めての試みではあったが、見学時に本気でプレイする選手たちの意気込みを見て圧倒されていたようだ。国際レベルの大会こそルールを守ることの重要性がフェアプレーにつながり、スポーツを観る(見学)、する(体験)、面白い(魅力)に出会えたと感じている。体験後の感想では、「難しそうな動きも、プロの選手からアドバイスをもらい、その気になってしまった。本当に楽しかった。」との声が多く寄せられた。</p> <p>○年間行事「清掃ボランティア」の参加率が高くなっている。入学したばかりの1年生も積極的に、活動していた。地域の方々から温かいメッセージをもらうと会釈をして、その子なりのコミュニケーションも図られた。地域交流は、これからの未来に生きる欠かせない社会経験と考える。</p> <p>○保護者・地域住民の方々との連携については、今年度、スポーツ大会、文化祭や公開授業等の行事を通して少しずつ実施できている。引き続き深めていきたい。</p> <p>○人間関係、考え方の相違として少々トラブルも見られた。教師は、事実を聞き取り、誠実に生きるすべを紹介していた。もの見方や考え方を広げるために、例を挙げてアドバイスすることで気持ちを楽にできることを伝え続けている。ケース会を開き、校内全体として生徒一人ひとりに寄り添うことを欠かせないよう努力している。</p> <p>【学習面・支援教育】</p> <p>○学習面で支援が必要な生徒について、学年を中心に放課後等を使って特別な指導を行った。スクールサポーターの力も借りて、長期休み期間中の個別指導(学習)も叶えられた。学校全体でどのような対応が出来るのか検討するとともに、外部機関との連携も含め、今後の支援を充実させていきたい。</p> <p>◎観点別評価(指導と評価の一体化)について意識を高め、各教科において評価の在り方を明確化する。</p> <p>◎総合的な探究の時間では、支援事業関係外部との協力を経て、本校全体の特別プログラムに取り組むことができた。</p> <p>◎今年度、新学習指導要領に則った新教育課程編成の実施が2年目となった。2年間を振り返り、学習内容等、改善が必要な部分について具体的な改善に努めていくべきと考えている。</p> <p>【研修】</p> <p>○「心肺蘇生法(AED)研修会」の継続実施と、「食物アレルギー(エピペン使用方法)研修会」を実施できた。また、今年度は生徒会役員を中心に、学年代表の生徒も研修会に参加させることができた。</p> <p>○支援教育に関わる外部職員研修も実施できた。日常の教育現場で活用していきたい。</p> <p>○今年度は、4年ぶりに部活動の各種大会(開会式実施)参加となり、部活動を盛り上げることができた。運動部においては3つの部活動(バレーボール、陸上、卓球、バドミントン)が全国大会出場を果たすことができた。今回の結果を真摯に受け止め、教職員全員で向き合っていくよりよい学校づくりに努めていきたい。</p>